

開催記録

名 称	令和2年度第2回会津美里町地域創生・人口減少対策有識者会議
開催日時	令和2年10月5日（月） 午後2時00分から午後4時00分まで
開催場所	会津美里町役場本庁舎 大会議室
出席者	出席委員：石光委員、鈴木委員、柏倉委員、笠間委員、塚原委員、 鈴木委員、長谷川委員 事務局：政策財政課長 鈴木國人、課長補佐 猪俣利幸、 人口減少対策係長 国分政和
議 題	会津美里町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略の 令和元年度成果検証について
資料の名称	会津美里町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略の 令和元年度成果検証について（資料1・2・3・4）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
内容	
<p>1 開会（省略）</p> <p>2 座長挨拶（省略）</p> <p>3 協議</p> <p>（座長） 協議事項に入る。協議内容は、総合戦略の令和元年度の取組実績の成果検証である。進め方は、総合戦略には4つの基本目標があるので、基本目標ごとに事務局からの説明を受け、委員からの質疑や意見を受ける。その後、基本目標に係る具体的な施策の事業について、有効性が薄いと考えられる事業を含め、改善が必要な事業の見直し方針等について、有識者会議としての意見をまとめる。</p> <p>事務局から説明をお願いします。</p> <p>（事務局）【基本目標1 本町における安定した雇用を創出するについて説明。】</p> <p>（座長） 事務局から説明があったが、雇用が一番重要なところで、対策も難しいところである。ご意見はあるか。</p> <p>（委員）（2）の地域資源を活用した六次化の推進とあるが、問題になってくるのが販売先である。販売先の推進を図らないと、いくら生産しても消費者の手に届けられなく、生産者の利益につながらない。首都圏への販売促進に加え、町中で販売する場所を確保することが六次化を進展させる最大のカギである。</p> <p>また、農業収入の減少要因として経営体の減少とあるが、作っている人が辞めても担い手が引き受けるので、経営体が減少しても総収入に影響しないのではないか。</p>	

(事務局) 地元の商品や農産物の販路拡大をねらったPR先は、どうしても人口の多い首都圏が中心となる。町内での直売所やイベント等を通して町内の方に地元商品を知っていただき、贈答用に使っていただければ県外への宣伝となり販路拡大につながる効果も期待できると思う。また町内では直販イベントの軽トラ市を年に数回実施しているが、このような機会を増やしていくべきとのご意見承りました。

また、経営体の減少と農業収入の減収の関係についてですが、高齢化による経営規模の縮小、条件不利な田畑は担い手に引き継がれず耕作放棄地となることもあり、全体の耕作面積の減少につながることから、要因の一つと分析している。

(委員) 町には道の駅がない。私は近くの道の駅に出品委託しているが手数料が25%以上で、利益が出ない。また、賞味期限も問題もあり、遠くのアンテナショップに出すには、それなりの賞味期限がないと出せないこともあり、その辺りを考えていかないと六次化も減少していくのではないかと思う。

(委員) (7)の生活支援サービスの充実による雇用の創出について、特別養護老人ホームが4施設となりA評価となっているが、中で働く従事者の方、特に若者がいない。施設は門戸を開いているが、新たに高校等を卒業された方、若者の申し込みがなく、雇用の面からみると如何なものかと思う。

(委員) (3)農産物のブランド化と販路開拓・販路拡大に対する支援について、アンテナ店舗との商品ニーズが合わないとしているが、生産者側の事情もあると思う。生産者側の商品に合った売り先を開拓すべきではないのか。

(事務局) 東京のアンテナ店舗は赤坂のワインレストランと赤羽のパン屋の2店舗である。町内の加工グループでは、主にドレッシング、ジャム、ピクルス等を製造しているが、初期投資の問題等なかなか新商品の開発に踏み切れない事情があり、アンテナ店でも店舗の性格に合わない商品は取り扱い憎いため商品数が増えない。委員ご指摘のとおり、生産者側の商品に適った店舗を拡大していく必要があると考える。

(委員) 赤坂のビオワインのお店に置いてある美里町の商品は非常に美味しいが、パッケージの見栄えがしない。他県のアンテナショップを見ると、さほど美味しくない商品でも売れているものがある。美里町の商品の中身は非常に良いものなので、誰に手に取っていただきたいか、ターゲティングを考えパッケージを工夫すればいいのではないか。

また、コロナ禍によって就農希望者は移住希望者の増加に伴い増えている。しかし、新規就農の制度が昔と変わらずハードルが高く、就農者と農地の貸し借りの関係が見え憎く苦勞することがある。もう少しハードルを下げ、オープンに見える化がなされれば新規就農につながるのではないか。

(事務局) 商品のパッケージ、見た目のデザインは購入意欲を高める重要な要素であると思う、貴重な意見として承ります。

(委員) 振興公社では、会津信用金庫で主催しているビジネスマッチングに参加している。首都圏のスーパーに商品を卸すため業者やバイヤーと話しをしているが成約につなげるのは、なかなか難しいと思う。この制度を通して首都圏で売れるための商品デザイ

ンやロット等バイヤーの注文をクリアーできるようアドバイスを受けている。バイヤーは非常に厳しい意見をもってやっているので、その辺りの要因をつかんで改善していければ、新しい販売先が増えるのではないかと。

(座長) 私どもの短大にはデザイン情報コースがありますので、コンテスの主催者になっていただいて、パッケージデザインの募集を企画してみてもどうか。短大生のデザイン能力をご利用いただくのも一つかなと思う。

(委員) (8) 成人式の企業ブース数について、C評価であるが非常に重要な話かと思う。新型コロナウイルスの影響で今年の成人式も延期になっているが、今後の成人式のあり方を考えると、成人式での企業ブースというこのやり方でいいのか。起業支援は何らかの形を考えられた方がいいのではないかと。

(事務局) 成人式では企業ブースでの情報提供に加えて、町内企業の情報誌を新成人172名に配布した。その他、情報誌を会津の高校10校に配布する等、町内企業の情報発信には務めた。

(座長) 成人式は他所に分散している方も参加するので企業PRのチャンスではあるが、新成人はその目的で来ているわけではないので、興味も如何ほどか。他の指標も検討してみてもどうか。

(座長) 基本目標1については、以上とする。

次の基本目標2について、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 【「基本目標2 本町への新しい人の流れをつくる」について説明】

(座長) 事務局の説明に対し、ご意見ご質問はあるか。

(委員) 評価がDとなっている2つの項目であるが、観光客数が減っており、住宅の新築・増改築も減少しているということだが、いずれも経済につながる大事なところである。コロナ禍の中、観光客を増やす取り組みを試行錯誤しながらやっていく必要がある。新築・増改築についても先延ばししている方も多いと思うので、コロナ禍を見据えながら経済対策を練り直してもらいたい。

(事務局) コロナ禍により落ち込んだ景気への経済対策はこれまでも行ってきたが、今後も状況を見据えながら必要な対策を講じていく必要がある。

(委員) インターネットの時代なので、町を訪れた人が良かったと思えばSNSを通してその良さを発信してくれる。清掃や管理を地域に任せるなどの対策をとって、地域の方が観光施設をきれいに管理していくような仕組みづくりが必要なのでは。

(事務局) 町ぐるみで観光客をもてなす気持ちを町民の方それぞれが持っていれば、観光客も気持ちよく旅ができる。昨年度から取り組んでいる「まちやど」事業を通じて、町民全員がプレーヤーであるとの意識と地域全体でおもてなしをする気運が高まればと思う。

(座長) 基本目標2については、以上とする。

次の基本目標3について、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 【「基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」について説明】

(座長) 事務局の説明に対し、ご意見ご質問はあるか。

(委員) (5) 仕事と生活の調和の育児休暇取得率について、男性の取得率7.1%、女性が31.0%とA評価となっている。私どもの事業所では男性の育児休暇の申し出はないが、女性については、産休後は育児休暇を取得するのが当たり前となっている。男性の方から申し出があるのは配偶者の出産後に残業を減らすことなどであるが、事業者として若い人たちが子供を産むことに協力していく必要がある。

(委員) 若い人たちが結婚しない理由をよく聞くが、平均給与が低く収入が上がっていかない、将来の保証がなく子供なんて考えられないという話も聞く。田舎には結婚への圧力があるので、会津の女性は若いうちは都市部に出て行って50代まで帰ってこない。結婚がすべてではなく、子供を産んで育ててといった生活だけでなく、色々な生活スタイルや価値観があり都市部ではそれが認められつつあるのに、地方ではまだない。行政としては結婚を推進する立場にあるのだろうが、結婚がKPIに上がっているのに違和感がある。

(事務局) 結婚推進は町の重点事業としており、結婚成立件数は第2期総合戦略でもKPIにあげている。町には結婚コンシェルジュを1人と結婚推進員を12人配置し独身者の婚活の支援を行っているが、あくまでも結婚を希望している方を対象として、お引き合わせや合同コンパ等の出会いの場づくりを行っている。

(座長) 基本目標3については、以上とする。

次の基本目標4について、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 【「基本目標4 時代に合った安全安心な地域をつくる」について説明】

(座長) 事務局の説明に対し、ご意見ご質問はあるか。

(委員) 特定空き家の解体件数とあるが、特定空き家はどのような空き家なのか。

(事務局) そのまま放置すれば倒壊の危険がある空き家について、空き家等対策特別措置法に基づいて町が指定する。現地調査を行い必要に応じ建築士等の専門家の意見を聞きながら、判定基準に基づき決定する。特定空き家に指定した場合、所有者に対し適正管理に向けた行政指導を行い、倒壊の危険のある物件については解体につなげる。特定家屋を解体する場合、町から50万円の補助金がある。

(委員) 特定空き家に指定された家屋は、傍から見分けがつくのか。

(事務局) 特定空き家の表示等は行わないので、傍から見ては判断がつかない。特定空き家に指定していない物件の中にも、危険な物件はあると思う。

(委員) 集落支援員の人数であるが、目標値3人に対して2人とあるが、募集しても応募がないということか。

(事務局) 3人を目標に設定したが現状2人で対応している。状況として、町内には高齢集落が多く、なかなか集落の受け入れが進まないことから2人で対応している。集落に入る件数は増えつつあるので、状況を見ながら人数を増やしていきたい。

(委員) KPIの設定であるが、人数のKPIであれば人数を増やせば達成できるのではないか。

(事務局) 第2期総合戦略ではKPIを集落支援員の支援を受けて話し合いをしている地区数に変更している。

(座長) 他に意見はないか。全体を通して KPI の見直しについての意見はあったが、事業効果がない又は事業の見直しが必要であるという意見はなかった。以上で協議事項を終了します。

4 その他 (事務局から連絡事項あり)

5 閉会 (省略)

以上、開催記録として報告します。